



令和5・6・7年 奥州市教育委員会 研究指定

研究主題

自分の考えをもち、適切に表現しようとする子どもの育成

～国語科における考えの共有を目指した指導を通して～

授業Ⅰ 13:20～14:05

1年1組 くらべてよもう

『どうぶつの赤ちゃん』

単元の導入場面です。提示されたどうぶつの赤ちゃんの写真を見て、自分の体験や知っていることと結び付けながら、学習の見通しをもてるようにします。



3年1組 読んで考えたことをつたえ合おう

『ありの行列』

書いた文章を読み合う場面です。文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く姿を目指します。



5年1組 事例と意見の関係をおさえて読み考えたことを伝え合おう

『想像力のスイッチを入れよう』

文章を読んで理解した内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ学習です。子ども達がイメージできるように具体的な場面を提示しながら授業を組み立てます。



ひまわり〔自立活動〕なかよし大作戦！

「なかよし交流会」をするための準備をします。交流会に向けて、協力し合ったり、相手の考えを受け止めて自分の考えを伝えたりする力を高めることをねらいます。



指導案はこちら



授業Ⅱ 14:20～15:05

2年1組 だいじなことに気づいて読み分かったことを知らせよう

『ロボット』

どんなロボットがあったらいいか理由をはっきりさせて友達と伝え合います。文章を読んで感じたことや分かったことを共有する力を付ける活動です。



4年1組 きょうみをもったことを中心にしようかいしよう

『風船でうちゅうへ』

単元の終末場面です。ロイロノートを活用して紹介文を読み合います。互いの感じ方や考え方を認め合うことを目指したグループ活動です。



4年2組 きょうみをもったことを中心にしようかいしよう

『風船でうちゅうへ』

興味をもったことを中心に要約し、要約した内容について自分の考えをもち、紹介文を書きます。個々の興味に即して、紹介する内容や用いる言葉を考える児童の姿を目指します。



6年1組 筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう

『「考える」とは』

単元の導入の場面です。教材文を読んで抱いた「問い」を基に学習のゴールを設定し、学習計画を子ども達自身が立てていきます。



6年2組 筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合おう

『「考える」とは』

説明文を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる場面です。お互いのものの見方や視点に着目し、交流していきます。



1 本校児童の実態（国語科における意識調査の結果より）

【国語の学習では、自分で目標を立てて取り組んでいますか。】

令和7年6月実施



【国語の時間で難しい内容があっても、あきらめずにがんばってわかろうとしますか。】



【国語の時間に、みんなで話し合うとき、自分から進んで話していますか。】



■ とてもそう思う ■ 少しそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

与えられた課題に対して一生懸命粘り強く取り組もうとする児童が多い。反面、自分から目標を立てて課題解決していこうとする姿勢や、自分の思いや考えを進んで話し、みんなで学び合おうとする意識はあまり高くなく、個人差が見られる。

2 研究の全体構想

目指す子ども像 ゆたかでたくましい人になるために

- ・深く考え やりぬく子ども
- ・よく運動し元気な子ども
- ・仲よくはげまし合う子ども
- ・自ら進んで 働く子ども

他者の考えを聞き、考えをつなぎ合わせながら、表現することのできる子ども

研究主題 自分の考えをもち、適切に表現しようとする子どもの育成
～国語科における考えの共有を目指した指導を通して～

研究仮説

単元で身に付けたい力を子どもの思いから引き出し、子どもが目的をもって学びに向かい、指導者が活動の質を高める工夫をすることにより、自分の考えをもち適切に表現しようとする子どもを育成することができるであろう。

手立て1

目的をもって学びに向かう工夫

- ア 付けたい力が明確で、子どもが目的意識をもって取り組める言語活動の工夫
- イ 子どもが達成感や学習内容の有用感を得られる振り返りの工夫

手立て2

言語活動の質を高める工夫

- ア 言葉に着目（本時における指導事項を把握）し、自分の考えをもたせるための工夫（考えの形成）
- イ 考えをつなぎ合わせ、広げ深めるための指導の工夫（共有）

《 児童の実態 》

- ① 友達と協働的に問題解決を進めようとする学習態度が育ってきている。
- ② 単元で学んだことを使おうとする児童が増えたが、語彙量が多くはない。（語彙）
- ③ 読んだことを咀嚼し、自分の考えをもつ児童は増えたが、適切な表現は十分ではない。（考えの形成）
- ④ 聞き合い、伝え合おうとする意欲があまり高くなく個人差が見られる。（共有）

3 研究の手立てとその実践

(1) 手立て1 目的をもって学びに向かう工夫

ア 付けたい力が明確で、子どもが目的意識をもって取り組める言語活動の工夫



イ 子どもが達成感や学習内容の有用感を得られる振り返りの工夫

実践例

ア 付けたい力が明確で、子どもが目的意識をもって取り組める言語活動の工夫

「問い」と「答え」をとらえて読もう
1年『つぼみ』

単元の導入で、つぼみクイズを出題し、学習教材への関心を高めたことで、「問い」と「答え」を見付けながら読み、「お気に入りのつぼみクイズ」を作りたいという児童の思いを醸成することにつながった。児童と一緒に言語活動を設定したことで、つぼみの秘密を伝えたいという思いをもって学習し、6年生へクイズを発表することができた。



イ 子どもが達成感や学習内容の有用感を得られる振り返りの工夫

主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう
6年『時計の時間と心の時間』

筆者の論の伝え方を視点に主張と事例の関係を捉え、筆者の書き方の工夫を生かしながら、自分の考えを書き、交流した。設定した単元のゴール「筆者の論の伝え方を参考にし、自分の主張を伝えられるようになろう」に対して振り返ることにより、期待する資質・能力に関わる記述が見られたことから、児童が達成感を得ることができたのではないかと考える。

学習内容	振り返り
①「笑うから楽しい」を読み、文章の構成をとらえる。	ふりかえり ①「笑うから楽しい」についてよくわかった。
②「笑うから楽しい」を、筆者の主張と事例の関係を着目しながら読み、考えたことを伝え合う。	②「笑うから楽しい」を、筆者の主張と事例の関係を着目しながら読み、考えたことを伝え合う。
③「時計の時間と心の時間」の全文を読み、学習の見通しをもつ。	③「時計の時間と心の時間」の全文を読み、学習の見通しをもつ。
④文章全体の構成をとらえる。	④文章全体の構成をとらえる。
⑤筆者が複数の事例を挙げた意図を話し合う。	⑤筆者が複数の事例を挙げた意図を話し合う。
⑥筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、伝え合う。	⑥筆者の主張に対する自分の考えをまとめ、伝え合う。
⑦学習したことをもとにして、ある話題について自分の考えを書く。	⑦学習したことをもとにして、ある話題について自分の考えを書く。

(2) 手立て2 言語活動の質を高める工夫

- ア 言葉に着目（本時における指導事項を把握）し、自分の考えをもたせるための工夫（考えの形成）
 イ 考えをつなぎあわせ、広げ深めるための指導の工夫（共有）

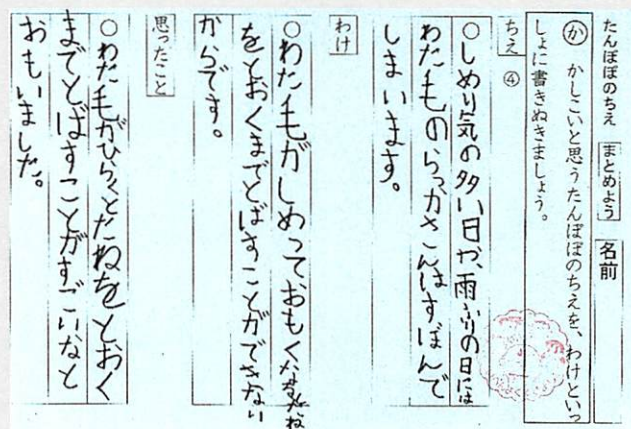


実践例

- ア 言葉に着目し、自分の考えをもたせるための工夫

じゅんじょに気を付けて読もう
 2年『たんぽぽのちえ』

一番かしこいと思ったちえについて交流するという学習のゴールに向かい、①選んだ知恵②わけ③自分の考えという3つの視点からまとめる活動を設定し、考えの形成を図った。



- イ 考えをつなぎあわせ、広げ深めるための指導の工夫

筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう
 4年『アップとルーズでつたえる』

筆者の考えに対する自分の考えをもつ時間に①引用②活用場面③活用したい内容という視点で考えをまとめた。交流場面では、視点ごとに考えを比較することが可能となり、一人一人の感じ方が違うことに気付くことができた。また、交流後には、友達の考えた活用場面から、新しい考え方を見付けたり考え方は一つではないと気付いたりするなど共有している姿が見えてきている。

〈交流後の振り返り〉
 今日の学習では、筆者の考えたことがいるんな時に使えそうなのが分かったし、みんなの考えを聞いてそういう考えもあることが分かりました。

筆者は、「何かを伝えるときには、このアップとルーズを選んだり組み合わせたりすることが大切で」と、「送り手は伝えたいこととに合せて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要があるのだ」と、自分の考えを2回言っていました。
 私も総合のまとめのときに筆者と同じように書くと思います。

4 成果と課題

【成果】

- 他教科の学習や自分の経験と関連付ける、既習内容と比較する、単元導入時にアンケートをとるなど様々なアプローチにより子どもの「学びたい」という意欲を引き出し言語活動を設定することができた。また、指導者がねらう振り返りの言葉をワークシートやICTを活用して見取り、子どもたちが達成感や有用感をもつことができた。
- 低学年においては自分の考えをもつことができるようなスモールステップの活動が有効だった。また、指導者が実際にゴールとなる言語活動を提示することで子どもたちが見通しをもって活動することができるようになった。考えをつなぎ合わせるツールとしてICTを活用することも有効であった。

【課題】

- 子どもたちが学習内容を見通すためには、指導者はどのような導入の工夫を行えばよいのか、資質・能力も意識して考えていかなければならない。また、振り返りについては、自分の学びについて、子どもが資質・能力を表す言葉を取り入れながら言えることが望ましい。
- 本校で目指す共有とは、形式的な交流だけではない。子どもたちの発言を教師が価値付けて板書に残したり、子どもの考えを広げ深めるために発問を練ったりするなどの手立てもとりながら、国語科で目指す指導事項に応じた共有の姿を目指していきたい。